

彙報

● 讀史會

例會 去一月十七日午後六時三十分樂友會館一號室で

開會、三浦西田兩教授始め四十二名出席左記卒業論文梗概發表あり十時散會。

五山僧侶の精神生活

中村 一良君

徳川時代後期に於ける國家意識

向居 淳郎君

中世に於る歴史思想の考察特に神皇正統記に就て

武藤 誠君

近世社會に於る階級構成の觀念

佐々木茂八君

中世の歴史觀

柴田 實君

鎌倉時代に於る武士精神の展開

下川 秀樹君

中世に於る熊野の勢力と其の文化に及ぼせる影響

菱谷 武平君

鎌倉時代の商業に關する一考察

森川 是隣君

例會 二月十四日夕六時半樂友會館講堂にて開會、出

席者三浦教授以下四十一名、左記卒業論文梗概發表の後三浦教授の講書初の御儀に召されて三題する講話あり十一時閉會

徳川封建社會と浪人(特に初期浪人に就て)

伊藤 只人君

中世後期に於る營利精神の展開

石垣 亮吉君

古代に於る言語信仰に就て

加計 敏吉君

平安朝末期に於る貴族庶民の文化的交渉鍋島 直康君

本居宣長

村尾 誠君

密教興隆の社會的背景(石垣君代讀)

山本 林君

文藝復興期に於る日本道への歸着

藤井 駿君

庶民生活と宗教運動

坂本 董夫君

御講書初の御儀に召されて

三浦 教授

御講書初の御儀の歴史の沿革より始め御儀の順序光景を詳細に説明し最後に御進講の内容(孝徳天皇紀)を朗讀して一同に有難い光榮を頒たれた。

例會 三月十七日午後五時三十分樂友會館で卒業祝賀

晚餐會を開き左記卒業論文梗概發表、三浦西田兩教授の

批評あり、牧助教授藤學士の感想談話等あり、十一時散會出席者四十五名。

江戸時代に於る四民の資金融通に就て 石塚 多君

江戸時代に於る階級思想の一考察 徳丸 福藏君

室町時代に於る新佛教 大熊 立治君

寺社名目金の貸附に就て 大角 良雄君

平安朝時代の澆末思想 和田 捷雄君

室町時代の一向宗(蓮如を中心とせる)に就て 榊島寛之助君

田村 勝郎君

中世に於る幽立思想の展開 今野 善胤君

西南戦争の經濟的考察

明治史研究會第一回公開講演

創立滿一年の記念として、二月九日午後一時より樂友會館講堂に於て第一回公開講演會を催し、左記講演を併せて史料の展覽があつた。午後五時閉會後、藤井甚太郎先生外遊送別の宴あり、會する者、三浦、藤井兩先生、徳重、伊藤、原學士、學生六人、食後歡談十時散會。

原 與作君
版籍奉還上奏文の研究

(本誌第十五卷第一號所載につき省略)
維新改革の指導結神 徳重 淺吉君

明治維新の原動力としての、政治經濟、社會、思想の各方面を概説せられ、特に維新改革の指導精神は神武創業の精神を新しい形に於て持來することであること斷じ岩倉公に近侍せる玉松操、眞木和泉の思想を紹介する所があつた。

明治維新以後の社會政策的施設 藤井甚太郎君

維新の政治は社會政策的施設に於ても見るべきものあり、之を地理的要件によつて分たば、都會(京都、江戸大阪)城下町、村落となり、人的要件に分たば、公卿、大名、町人百姓、浮浪無賴徒とすることが出来る。今例を京都にしろんか、浮浪無賴徒に對する施設として、明治元年十一月府は流民集所仕方書を發布し、千本堀川、その他六所に流民屯所を作り、浮浪無賴の徒を收容し、これを年齢によつて數班に分ち、免札を附與して、適宜雜役に使役し、賃銀はその半額を支給し、半額は貯金せしめ、自立の資本をなさしめた。また東京遷都のため産

業賜金として明治二年五萬兩の御下賜があつた。云々。

ゼネラル・グラント來朝に關する新知見 三浦 周行君

ゼネラル・グラント來朝に關する新史料を蒐集したる

結果を發表されたるもの、彼が日本に與へたるアドヴァイス中特筆すべきもの第一は日清兩國間に繋争ミなれる琉球の所屬問題を解決せることであり、第二は彼が濱離宮に於て明治天皇に咫尺し、御忠言申上げたるが、その中外債募集は國力を害するこゝを開陳した。明治十二三年の頃政府は財政困難により外債募集計畫を樹てしに陛下はグラントの言を引かれて之を聽し給はず、又明治二十七八年戰役に際し、再び外債募集の計畫となりしが、伊藤公は陛下の御意を奉戴し日本銀行總裁河田氏に命じて之を内債に變更せしめたることあり、今日の國情に比し多大の感銘を與へられた。

展 覽 史 料

一、ゼネラルグラント來朝に關するもの十六點

(京都帝國大學所藏)

二、伊藤山縣木戸諸公の尺牘九卷

(伯爵田中光顯氏所藏)

三、伊藤、大山榎本等尺牘 七卷

(渡邊得次郎氏所藏)

西洋史讀書會

例會 昭和四年十月四日、於樂友會館、時野谷助教授
他十七名出席。左の紹介あり。

Bury, The Idea of Progress, 文學士 鈴木 成高君

Sybel, Geschichte der Revolutionszeit, 鈴木長四郎君

Byron, The Byzantine Achievement, 植杉英之助君

例會 十一月二十三日、於樂友會館、濱田教授、時野

谷助教授、日野眞澄氏他十四名出席。左の講演あり。

歴史研究法の基督教解釋に及ぼせる影響

日野 眞澄氏

汎希臘主義とマケドニア 市川 文藏君

送別會 昭和五年二月八日、於京極三島亭、本年度卒業生送別の意味で開く。早春の一宵を歡談に送る。來會

者濱田教授、時野谷助教授、其他二十二名

地理學談話會

田中秀作、小牧實繁兩氏の歸朝歡迎談話會を昨年十二月十四日正午より樂友會館に於て開催した。石橋小川兩

教授を始め會する者二十餘名。左の講演があつた。

獨逸地理學界の現状

田中 秀作君

獨逸の地理學界は頗る隆盛であつて、ベルリン、ライプチヒ大學の如き所では數人の教授に專攻學生二百人あり、講義のときには歴史經濟より來る學生を合せ三四百人に及ぶ。研究の主題目は、一地誌、二聚落、三植民地理、四經濟地理である。また旅行談としてハンガリー及び南米に關する興味ある時餘講話があつた。

歐米旅行談

小牧 實繁君

二年三ヶ月に亙る見聞中から特にピレネ及びアビシニヤの旅行談を試み、アビシニヤの獨立を保てる所以を人種的地理的理由に求め、此の國は現時宛ら日本の維新の如き時期にあり志士達が銳意改革に努めてゐる。こゝから王室に賓客として招ぜられ親しく見聞された國情に就いて語られた。

會報

圖入 會

福岡市外箱崎町一光寺内

三宅 周賢氏

福岡縣九州帝大法文學部史學科

青野 喜助氏

和歌山縣海草郡岡崎村大字井邊五三二

井邊 房夫氏

(右紹介者 重松俊章氏)

名古屋市東區杉村町三三二五

淺野 清氏

(右紹介者 若山善三郎氏)

大阪府三島郡春日村中穗積六八

中村 節氏

(右紹介者 魚澄惣五郎氏)

堺市車之町東一丁

田畑誠之助氏

(右紹介者 牧野信之助氏)

長野縣諏訪郡川岸村小學校内

矢田 三竿氏

京都帝國大學文學部史學科

日下 卓造氏

同

村上 嘉實氏

同

末森 量氏

同

鈴木 祥造氏

(右紹介者 島田貞彦氏)

退會 大曲美太郎氏

會員動靜